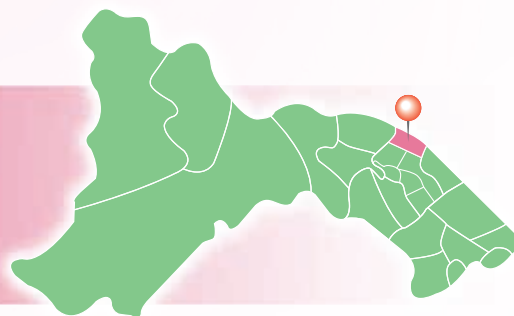


小山地区自治会連合会

相模原駅北口が 大きく変貌する小山



▶ 小山地区の概要

小山地区は、JR横浜線相模原駅を中心に、北は米軍基地である相模総合補給廠があり、南は西門、駅周辺の商店街がある。また、相模原駅は、相模原市役所や官公庁、田名方面の工業団地への勤務者などの表玄関口として発展してきた。自治会は9自治会で横浜線を挟んで南側に4自治会、北側に5自治会で構成され、今後も更に人口の増加が予想されている。

▶ あれから10年、小山地区は大きく変わった

米軍相模総合補給廠が北口にあり、該当する面積は214haで内17haが返還された。広域交流拠点整備計画の推進により平成29年4月に南北道路の開通、平成30年3月には東西道路が開通した。東西・南北の道路が開通した事は、相模原市と共に地元小山地区にとって画期的な出来事である。

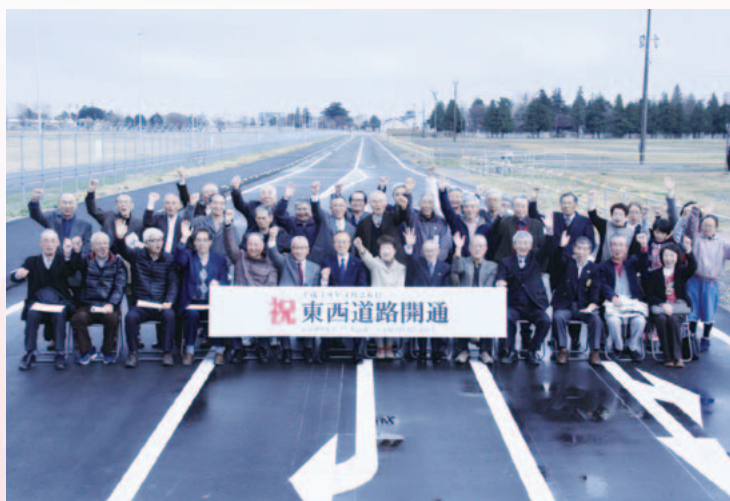
この道路開通が、広域交流拠点基本計画の突破口となりJR横浜線の立体交差化、小田急多摩線延伸及び町田市と相模原市宮下を結ぶ「宮上横山線」の進捗は計画から20年経ち現在85%の用地取得となった。念願の「宮下横山台」は相模原市新道路整備計画に位置づけられた。今後広域商業地域の計画が推進されることを望んでいる。

▶ 地区自治会連合会の活動

平成28年に新装改築された小山公民館にコミュニティ室が新設され、各地区団体が共用し活動拠点として活発に使用している。平成29年には全地区の防犯灯がLED化され、明るく安全・安心のまちづくりが始まった。自治連に四部制組織を発足し、各部長が事業を推進している。



南北道路開通 !!



東西道路開通 !!

▶小山地区で支え助け合う、高齢者支援センターが地元へ

小山高齢者支援センターは小山の中心部の宮下一丁目にセンターを移した。今後は高齢者の生きがいと居場所づくり、認知症の見守り支援ボランティアの担い手、困りごと相談等の充実を行っている。



地域全体で取り組む夜間パトロール

▶10年間の地区自治会のあゆみ

(1) 宮下自治会

平成18年青パト開始12年、現在も活躍中、子ども会とおやこ村を継続。農業に親しみ収穫祭を実施。念願の宮下横山台線の延伸が具体化された。夢のリニアも宮下地下を通過する。

(2) すすきの自治会

平成28年「地球環境美化功績表彰」大臣表彰。伝統の「夜回り」は今も「カチカチ火の用心」が年間を通して実施、特に「寿々喜の会」は50周年を迎える。

(3) すすきの向陽自治会

昭和54年から平成21年まで約30年間続いた青年部が後継者不足により廃部となったのは残念。又6年間続いたすすきの保育園合同の夏祭りは自治会単独開催の意向が強く合同開催を中止した。

(4) 向陽町自治会

平成27年防衛省の向陽宿舍廃止（64世帯）の為に自治会員が激減した。向陽小の前を東西道路が開通し下校時の交通安全対策に取り組んで来た。

(5) 久保原自治会

近隣の企業と防災協定や工場敷地を子ども広場に借用させて頂いた。又交通量増の事故防止として長年を掛けて運動した信号機が市内でも16年ぶりに設置され画期的な事業であった。

(6) 相模原駅前自治会

南北道路が16号に接続出来るよう、相模更生病院前の踏切が改修されることを祈



おやこ村の様子



16年ぶりに新設された信号機

る。平成29年より年末2日間に「火の用心」の夜回りを開始。自治会エリアを東西に分け各エリアの役員により、活動をし、役員間の意思疎通の向上にも役立っている。地域の皆さんが元気に過ごせるよう駅前ラジオ体操会が駅前公園広場にて、平成30年4月よりスタート。汗を流し、おしゃべりに花を咲かせ、毎回大勢の方が参加している。(毎週水曜日8時より)

(7) 東第一自治会

相模原駅前周辺まちづくり協議会も発足し、駅を中心とした広域交流拠点整備計画が進んで来た。小田急多摩線延伸とJR横浜線の立体交差化計画の検討が始まる。自治会加入活動が実った成功事例で一気に70世帯数の自治会加入が実現した。実現には3年越しの促進活動があった。その最大のポイントはマンション建設会社、現場の建設事務所への定期的なアポイントで自治会加入チラシを配布、駅周辺のまちづくり推進活動の内容等説明を行った。

(8) 氷川町自治会

平成23年3月氷川町自治会50周年記念誌を発行し記念夏祭りを開催した。自治会の全世帯、児童から高齢者までが、地域の諸活動に活発に参加している自治会である。

(9) 丸山自治会

念願の南北・東西道路の開通によりアクセスが格段に向上した。北口側外周道路の計画が日米間の調整で未着手である。ここ10年間で14世帯増え153世帯となった。

▶ 今後の課題

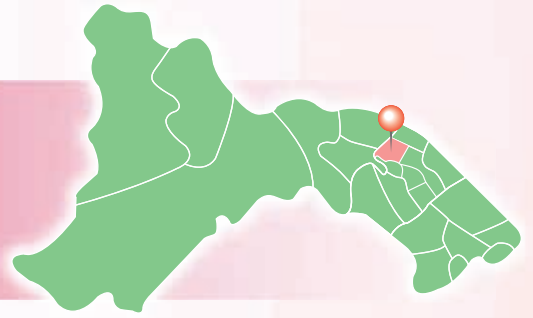
広域交流拠点整備計画の取り組みについて

①相模原駅前周辺まちづくり5パターンの検討、特にJR横浜線高架方式・地下方式の検討参加、②小田急多摩線延伸の採算性について、③宮上横山線・宮下横山台線・補給廠北側道路の進捗



小山地区ふるさとまつり

誰もが心豊かに安心して暮らせるまちを目指して



はじめに

清新地区は、大規模な区画整理が行われた平坦地域で、整然とした住宅地が形成されているとともに、相模原駅周辺を中心とした道路網が形成され、交通、商業、業務施設などの都市機能が集結しており、相模原市の中心的な地域として発展してきました。相模原駅周辺のほか、南橋本駅周辺も、高層住宅や商業施設の立地が多く見られます。

世帯数は約14,000世帯、人口約30,000人、来し方10年のまちの歩みを幾つかご紹介いたします。

「橋本小山ふれあい立体」完成

都市計画道路「大山氷川線」は、JR相模線を地下で横断し、新たに橋本地区と相模原地区を結ぶ幹線道路です。旭中入口交差点からアリオ橋本の前を通り、JR相模線の下を横断して小山1丁目交差点を結ぶ道路が整備され、平成22年9月11日供用開始されました。

2027年には、JR橋本駅南口にリニア中央新幹線神奈川県駅が完成する予定で、産業の活力と賑わいあふれる交流拠点の誕生が期待されます。



橋本小山ふれあい立体(H22年)

桜並木と芝桜の名所をめざして！

JR相模線沿いの小山小・中学校西側にある遊歩道は約400mの桜並木が続き、春には近隣から多くの人々が訪れ、花見を楽しんでいます。

樹齢60年を超えた桜の根の周りには長年の人の往来により土が踏み固められ、根の痛みが心配されていました。そこで、地域の人に愛され親しまれている桜並木を大切にしようと、周辺の5自治会やPTA・学校などが、平成24年に「相模線桜並木保存実



桜並木と芝桜(H24年)

JR相模線沿いの小山小・中学校西側にある遊歩道の桜並木は「相模原市さくらマップ」の名所に選ばれています。

行委員会」を結成し保存活動を始めました。

現在まで2,300株の芝桜を桜の木の下に植え、人が立ち入らない環境づくりに取り組んでいます。また、地元の子どもたちと共に、除草や水やりなど「誰でも気軽に参加できる活動」を続け、桜並木の保存の輪を広げています。

▶ 清新のシンボルマークで 「自治会加入証」作成

「清新」の「S」をモチーフに、上の三角の青は相模の青空を、下の三角の茶色は相模の大地を表します。相模の自然に囲まれ、皆で支えあう、安心の街を中央の緑色の部分で表します。国道16号をイメージしたラインに幸運の7つ星がふりそそいでいます。



自治会加入証

▶ 体を動かして元気に過ごしましょう

「清新ラジオ体操の会」

地域住民の体力向上、健康の保持や参加者同士のコミュニケーションを図ることを目的に、老人クラブが自治会や民生委員の協力を得て「清新ラジオ体操の会」を立ち上げ、5会場で実施しています。会場の美化活動と、帰りには学童の通学見守り活動も併せて実施しています。



清新ラジオ体操の会 (H27年発足)

▶ 南橋本駅前交番開所

平成30年4月1日JR相模線南橋本駅前に、地元待望の交番が新規開所されました。

この交番は、昭和54年に地域住民が相模原市へ交番新設要望書を提出し、爾来38年の時を経て、相模原市と地域の熱意が県の心を動かし、開所に至ったものです。地域の防犯拠点として、犯罪の抑止効果が期待され、地域を見守る、親しみを感じる交番であることを願っています。



南橋本駅前交番開所 (H30年)

▶ 国道16号相模原駅周辺自転車道

自転車は、幼児から高齢者まで幅広い層が利用する国民の身近な交通手段です。

このたび、自転車通行環境整備のモデル地区として「相模原駅周辺地区」が指定され、相模原警察署から相模原駅入口交差点までが先行整備され、その後、市・警察・商店街・自治会・相武国道事務所で懇談会を行い、清新交差点まで自転車道延伸を要望し、平成27年1月に開通しました。安全・安心なまちづくりを目指しています。



国道16号相模原駅周辺自転車道開通(H27年)

▶ 清新ふるさとまつり

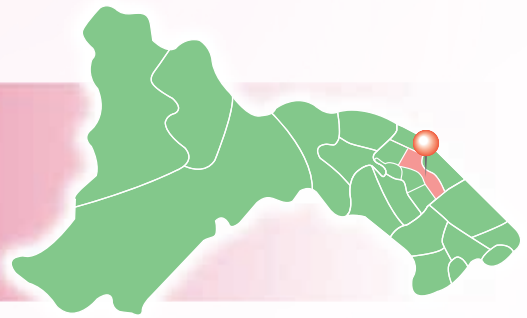
「清新ふるさとまつり」は、清新地区に夏をつげる風物詩としてすっかり地域に定着しています。なかでも「花火大会」は多くの企業・事業主の協賛を得て、地域住民の協力のもと、「すぐ近くで見られる花火」と好評を得ています。

模擬店も20店以上が出店し、多彩な催し物や賑やかな盆踊りなど“心かよいあうふるさと”をモットーに住民相互の親睦がはかられています。



清新ふるさとまつり

「地域を守り 地域を創る」 中央地区



▶ 地区の概要

中央地区は、①相模原・中央・千代田、②矢部、③富士見、④相栄の4ブロック33の自治会で構成され、約3万6千人が居住しています。

相模原・中央・千代田、富士見地区は官庁や文化施設が集中、矢部地区では高層マンション・アパートの建設が進み人口増加が著しく、これら3地区は市の中心部に位置しています。国道16号線が車道・自転車道・歩道とそれぞれ専用に整備され、市役所前、西門の並木通りと合わせて、一段と綺麗で快適な緑豊かな市の顔となっています。

春の桜まつりは、市の一大イベントとして多くの人々の交流の場となっています。

また、JR横浜線矢部駅では、エレベーター設置や地下道・駐輪場の整備等通勤・通学の利便性が良くなり、利用者が増大しています。

相栄地区は、閑静な住宅街の中、広大な淵野辺公園やJAXA相模原キャンパス、市立博物館、国民生活センター等が所在し、学術・文化・憩いやスポーツに恵まれた環境にあります。

富士見・相栄地区には、学校（小学校3、中学校2、高校1）が多く、人口増加に伴い児童・生徒の数も増え、多くの子ども達が賑わい、学校と地域の交流や連携が一層深まっています。

▶ 自治会活動について

1) 「ふるさとまつり」と「町民運動会」

ふるさとまつりは、地域内住民のふるさと意識の高揚と住民相互の交流親睦を図り、心の通い合う明るい街づくりを目指して、毎年夏33自治会が主体となり開催しています。

地域諸団体による模擬店や工作コーナー・グッズ等の販売、中学校、高校による吹奏楽演奏、バンド演奏、盆踊り等盛大に開催されています。中でも中高生の吹奏楽演奏は、生徒と地域の皆さんとが音楽で直に触れ合う交流の機会であり、中央地区らしい催しとして大好評です。

また町民運動会は、33自治会を10チームに分け、子どもから大人、高齢者まで



中央地区ふるさとまつり

三世代が運動を通し、一体感と親睦とコミュニケーションの輪を広げ、より良い人間関係をつくることを目的に開催されています。

2) 防災、交通・防犯活動

「防災対策」

近年いつ起こってもおかしくない地震や突然の集中豪雨、台風等災害の発生に備え、尊い人命や財産を守り、被害を最小限にするため各自治会では積極的に防災訓練や避難所運営訓練、防災資機材の整備等を実施しています。

自治会連合会では、「地区防災計画」を作成し、毎年自治会相互が助け合い連携した対処が出来る様、実践的な消化訓練、救出・救命訓練等を実施し地区防災力の強化・向上を図っています。各世帯には、「防災ガイド」を配布し、避難場所や家庭での非常用品等の啓発を行っています。

「交通・防犯対策」

人口増加、社会環境の変化により、近年振込め詐欺が急増、自転車や自動車の部品盗難、不審者の出没等犯罪も多発傾向にあります。

また、自転車の事故が急増しており、地域パトロール、交通・防犯啓発運動、講習会等を実施し、犯罪抑止力と交通事故ゼロを目指し、対策を強化しています。



町民運動会



防災訓練



見守り活動

▶魅力あるまちづくりについて

「もみの木コンサート」

地区内小学校、中学校、高校の6校に加え多くの地域シニア団体の参加、さらに市内音楽関係者を招いて開催しており、平成30年度で17回目となります。毎年1300人を越える参加者で盛り上がる年末の一大イベントに発展し、音楽を通して地域の絆の醸成を図っており、中央地区の音楽文化として評価されています。



「子どもと大人 共に学ぶ宇宙教室」

中央地区には『はやぶさ』など日本の宇宙開発拠点のJAXA相模原、プラネタリウムを備えた博物館があり、子ども達や市民が宇宙を学ぶには非常に恵まれた環境にあります。

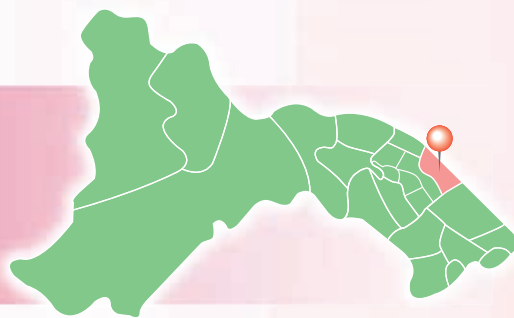
平成27年度からこの恵まれた環境を存分に活用して、幅広い年代層を対象に“夢と未来を”宇宙を通して学ぶ教室を開催しています。年6回の講座開催で、参加者はこの3年間延べ18回の講座で1,600人を数え、JAXAの先生の分かりやすいお話から、映像や実験、工作を組み込んだ講座は大変人気を博しています。

“JAXAのある街中央地区”ならではの“学びの文化”となっています。



大野北地区自治会連合会

魅力あるまちづくりをめざして



▶ 大野北地区の概要

当地区は中央区の北部にあり、東西に国道16号線とJR横浜線が通り、淵野辺駅・矢部駅と隣接した古淵駅を中心に比較的利便性の高い地域であります。また、地域の歴史をたどると南北朝時代の足利直義の家臣淵辺義博が淵野辺を領有していました。後醍醐天皇の第一皇子大塔宮護身親王伝説や龍池の大蛇退治など極めて古い歴史の残る場所で、宮城県石巻市とは深い関係があります。地域内を流れる境川は、江戸時代には高座川（たかくらがわ）と呼び、武蔵国・相模国を画する境界でした。廃藩後の明治4年に誕生した神奈川県には東京三多摩地区（南多摩・北多摩・西多摩）が含まれていましたが、明治22年の市制・町村制施行にともない、東京都と神奈川県の間として境川と呼ぶようになりました。従って、町田市との関連が非常に多い地域でもあります。

▶ 人口の動向

当地区の人口は平成30年4月現在60,093人で10年前と比べると5,340人増加しています。また2032年まで人口は緩やかに増加するものの、2065年には56,538人と減少が予想され、市内では減少率が6.7%で最も低いものの、高齢化率は38.9%まで上昇し、4人に1人が75歳以上になると予想されます。高齢化社会への対応や、住民が暮らしやすいまちづくりとして「コミュニティバス」の実証運行に取り組み、また道路交通環境の向上を推進しています。

▶ 青学の箱根駅伝優勝に沸く

青山学院大学が箱根駅伝で4年連続優勝に輝き、地元淵野辺では大野北地区まちづくり会議、にこにこ星ふちのべ商店会主催の祝賀パレードを開催しました。凍てつく寒さにもかかわらず3万人の青学ファンが県



淵辺義博の碑



コミュニティバス

内外からも駆けつけ、選手たちの活躍に祝福を送っていました。加山市長からのお祝いメッセージをはじめ、原監督や代表選手からの力強い挨拶がありました。その後、選手たちは沿道のファンに笑顔でサインに応じ、淵野辺の駅前には青学色に染まり、大歓声に包まれました。



青学優勝祝賀パレード

▶ 青色防犯パトロールカー

当地区では安全で安心に暮らせるまちづくりの一環として、様々な取り組みをしていますが、特記すべきことは青色防犯パトロールカーの導入です。交通安全パトロールをはじめ、子どもたちの登下校時の見守りや地域の見守りとしての防犯活動など様々な場面で活躍しています。これからも地区自治会連合会を中心に、単位自治会、小・中学校PTA、また各種団体の方々にも協力をいただき、青色防犯パトロールカーを大いに活用し、住民が主体となって地域の安全と安心を見守ります。



青色防犯パトロールカー

▶大野北銀河まつり

毎年8月の第1週目の土・日に鹿沼公園で開催される「大野北銀河まつり」は夏の一大行事として年々地域に定着し盛り上がりを見せています。これは7年前に「ふちのべ銀河まつり」から更なる賑わいを期して「大野北銀河まつり」に発展改称しました。地域住民のふれあい・交流・親睦を深め、子どもたちからお年寄りまですべての人々が大野北を意識し、住み良い活気ある地域づくりをめざしています。



自治会加入促進キャンペーン

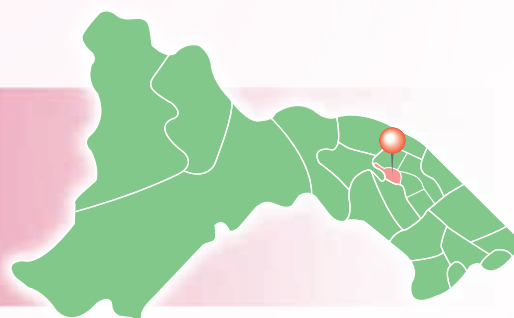


銀河まつり

▶今後の取り組み

市民アンケート調査では、当地区の今後の居住傾向は「今の地域ですずっと住み続けたい」31.6%「自分の間は住み続けたい」50%となっています。文教地区としての特色を生かし、より魅力あるまちづくりを進めていく取り組みとして「大学と地域との連携協力に関する協定書（青山学院大学、麻布大学、桜美林大学）」が締結されました。淵野辺地区は図書館、博物館、都市公園などの公共施設や大学キャンパス、JAXAなどの文化施設が多く立地しているという特色に加え、相模原市の地区中心商業地の形成をめざしている地域です。しかしながら商業地としての集約が進んでおらず、図書館、公民館等の公共施設は老朽化が進行し、早急に公共施設を集約・複合化する等の再整備を行うことが新たな文化交流拠点の創出として必要不可欠です。自然を愛し、人が集う次世代へ引き継ぐ活気ある「まちづくり」整備を一体的に行い、魅力ある地域シンボルエリアの形成、及びまちの賑わいの創出を図ることが今後の課題です。

10年未来の “今”づくりを目指して



▶ 横山地区の概要

横山地区は、相模原市に22ある地区連合会のなかで、面積も世帯数も一番小さなグループになります。

特徴的な商業施設もなくどちらかといえば、清閑な住宅地域と位置付けられると思います。この10年を振り返ってみると、大きな変化がなかったように思いながらも、じっくりと地域を観察しているとさまざまな変化に気づかされます。

一つ目は、県営横山団地の再整備が進み、高層の集合住宅の完成と共にすっきりとした景観になってきたことです。再整備も終盤に差し掛かっており、生活基盤が整うことをうけて、地域の活動についても再整備の必要性が出てくるかもしれません。

二つ目は、下九沢地域における、商業施設誘致にともなう利便性の大きな向上です。バス路線の整備も含めて、この地域にこれまでなかった食住が一体となった環境が整えられたことにより、より充実した生活創造に心が向けられる基盤が整ってきたといえるでしょう。

三つ目は、高齢者施設が次々に造成されたことです。10年前の動きと比べると、ここ数年の開業スピードは、はるかに上がっています。これまであまり意識することがなかった、地域と高齢者施設とのかかわり合いについて、社会福祉協議会と共に検討を進める必要が出て来ています。

また、昔は多くあった畑が、いつの間にか居住施設に変化しています。その為もあってか、風の強い日に舞い上がっていた土埃を以前ほど強く感じなくなりました。



再整備中の県営横山団地



下九沢地域の利便性の向上

以上のような変化の中で、地域の活動に目を向けると、基幹となるイベントには大きな変化はなく、地域の大切な行事として継続してきており、これからも時代やニーズの変化に応じながらも守り続けていきたいと考えています。

▶ ふるさとまつり

毎年8月に「横山地区ふるさとまつり」と称して、横山小学校の校庭にやぐらをたて、その周りを練習を積んだ盆踊りのメンバーがこぞとばかりに踊りを披露します。オリジナルの「横山音頭」もあって、祭りの中心行事です。周辺では各自治会が趣向を凝らした模擬店で来場者を喜ばせています。ふるさとがこの地ではない人が多く暮らすこの地域で、それぞれのふるさとの祭りに思いをはせながら、手作りの祭りを皆で楽しみます。

▶ どんど焼き

毎年1月に横山小学校において行われます。2本の火柱の横のステージでお囃子、大太鼓、よさこい踊りなど、炎の鎮静までの間一気にイベントが進んでいきます。その周りでは、大勢の方が無病息災を願う団子を焼こうと、今か今かと待ち構える景観は圧巻です。正月にそれぞれのふるさとで過ごした人たちも、この時ばかりは「ここにもふるさとがある」と感じている瞬間ではないでしょうか。

▶ 地域づくり

大きな二つの行事以外にも、秋には公民館と共に運動会や合同防災訓練を行っており、地域のコミュニケーション強化や防災意識の高揚に努めています。また、安全・安心の取組みとして継続している青色パトロール隊による防犯パトロールは、その活



高齢者施設の造成



横山地区ふるさとまつりの風景



圧巻の横山地区どんど焼き

動が評価され、様々な方面から表彰を頂いており、メンバーたちの活動継続への大きな心の支えになっています。

▶未来へ…シンボルツリーと照手姫伝説とともに

横山小学校の校庭の端に、大きな大きな1本のメタセコイヤの木があります。小学校の近くには、照手姫伝説につながる榎神社があります。この木と神社は、ずっとこの横山を見守ってきました。つい見過ごしがちなこの二つは横山地区の大切な宝物です。これからは私たちが、この二つを見守る番だと考えています。この二つをつなぎ合わせて、地域に住む皆が、子供たちが、自慢げに語ることができる「ふるさとのランドマーク」となるよう、横山地区の皆で協力し合い、知恵を出し合い、行政や近隣の地区連合会とも連携し、継続して取り組んでいきたいと思えます。時間はかかるとは思いますが、10年未来の子供たちが、ふるさとの自慢話ができるように。



継続的に行っている青色パトロール



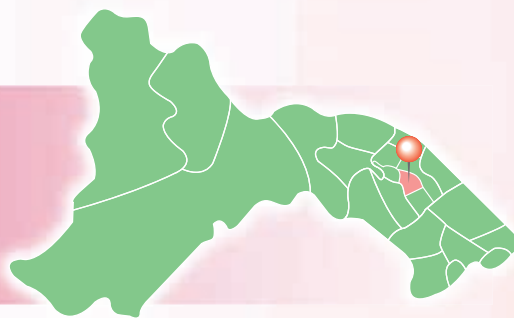
榎神社



横山小学校内にあるメタセコイヤの木

星が丘地区自治会連合会

やさしさいっぱい星が丘



▶ 生い立ち

星が丘地区に人が住み始めたのは、昭和15年からの旧陸軍進出に伴い従業員や家族のために建てられた住宅90戸に約300人が昭和17年に入居したことが最初です。入居当時この地は県営と呼ばれていましたが、住民が早く地名を付けたいとの要望があり昭和18年10月にこの地から見る夜空の星の美しさが入居者が旧陸軍関係者に限られており、帽子のマークが星であったため「星ヶ丘」と名づけられました。

▶ 概要

地区内に中学校や高校等はなく唯一昭和24年に開校した星が丘小学校があるだけで、学区と自治会連合会の区域は同じで非常にわかりやすくなっています。自治会数は14で全て名称に丁目があります。地区の行事はいつも星小や隣接する公民館で実施されているため、新住民もすぐ馴染みの場所となっています。そのため、当連合会を始め各団体は星小との連携が強く、子ども会活動等子どもに係る事業に理解と協力があり活発に行われています。



チリリンスクール

▶ ふれあいフェスティバル

3・11東日本大震災後、誰もが「何かをしたい、しなければ」と思っていました。

当連合会は公民館区各団体の協力を得て5月15日に復興支援「チャリティ広場」を開催しました。当日出店した模擬店や来場者からの寄附金は百万円を超える事が出来、被災地に送付しました。

その後、各自治会や団体から「復興には息の長い支援が必要だ。自分達で出来る支援を続けたい。」「自分達が被災者になった時、近所でもっと多くの顔見知りが必要。」との意



夜間防災訓練

見が出され、地区内で助け合える絆を深めるため「ふれあいフェスティバル」を毎年10月に実施しています。会場には募金箱があり、今も全国各地で起る災害を再認識し、防災、減災を考えています。

また、5年前に星が丘をどんな地区にしたいかキャッチフレーズを募集した所、「やさしさいっぱい星が丘」に決定しました。イベント時には、冠に付けてフレーズ通りになる事を目指しています。



ふれあいフェスティバル



ふるさとまつり・町民運動会



自治会館で開催の学習塾

▶ コミュニティ

数年前から「いきいき百歳体操」がブームとなり以前より行われていた健康マージャンやサロン等に加えて、大多数の自治会で高齢者を中心とした仲間作りの場ができました。くちコミで百歳体操の参加者が増え、そこで知り合った者同志が新たなことを考えています。子ども会を巻き込んでソーメン流し等を実施。

また、子どもの居場所作りも行われており、自治会館に勉強ができる環境の整備、提供や本を沢山置いて子どもを迎える等、他の模範となっている所も少なくありません。



いきいき百歳体操

▶ 安全・安心

所謂「振り込めサギ」撲滅に向けて「電話に出ない。留守電の設定を」と呼びかけていますが、撲滅にはほど遠く効果は上がっていません。根気強く留守電機能を説明し設定の普及を図っていかねばならないと思っています。

また、空き巣や窃盗等も多く発生しています。各自治会等のパトロールだけでは防ぎきれません。

地区全体で防犯カメラを設置し犯罪の抑止が必要です。

当連合会では、個人が留守電機能付に取り替える時や、自治会が防犯カメラを設置した場合、独自の補助金を支給し推進を図っています。

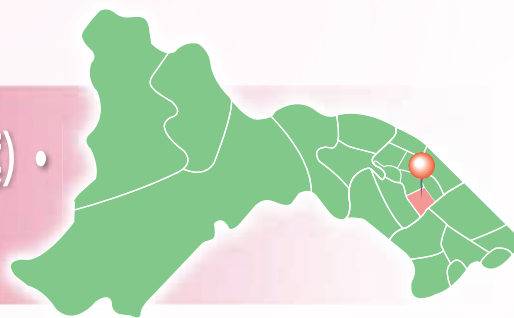
犯罪や事故のない明るい地区を作っていかなければなりません。



自治会館内の図書室

光が丘地区自治会連合会

太陽 (陽光台) の光 (光が丘) ・青い空 (青葉) ・
緑 (緑が丘) の並木 (並木) のふるさと



▶ 光が丘地区の特徴

冒頭の一節は、光が丘地区を見事に言い表しています。相模原台地の上段に広がる平坦地に、県道村富相武台線を挟んで、陽光台地区と光が丘地区・青葉地区・緑が丘地区・並木地区が隣接し、主に一戸建住宅が建ち並ぶ地区です。先人達の継続的な努力で光が丘地区のコミュニティ活動はどんどん活性化してきました。

自治会加入率も70%と相模原市の平均を上回り、各自治会を軸に社会福祉・交通安全・防犯・防災・消防団・青少年健全育成・PTA・環境美化・老人会・子ども会・公民館活動など各種団体との連携も良く取れています。

▶ 光が丘地区の主な活動

1. 防災活動

特徴的なのは、13ある「独立防災隊」の存在です。通常の自主防災隊は毎年交代する自治会の役員・班長で構成され、名簿上の防災隊であり形骸化しています。

しかし、光が丘地区の「独立防災隊」は任期を定めずに自治会役員とは別のボランティアで構成されます。そして、地区内に住む約40名の防災マイスターとも連携し、「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉にして実際に役立つ消火・救出の合同訓練を定期的に行っています。その活動が認められ、2017年には総務省消防庁主催の「第21回防災まちづくり大賞」において、「日本防火・防災協会会長賞」を受賞しました。

2018年からは、それまで個別に活動していた避難所運営協議会・防災隊・防災マイスターが密接に連携していくという画期的な方針が打ち出されました。



独立防災隊 スタンドパイプ防水訓練

2. 交通安全活動

特に自転車事故を減らすために交通安全協会・交通安全母の会・PTA・地区自治会連合会は継続的に地道な啓発活動（春・夏交通事故防止運動、自転車事故撲滅街頭キャンペーン、秋の交通街頭キャンペーン）を続けています。交通事故件数全体は毎年横ばいですが、2018年に入って自転車事故は減少

傾向を見せています。7月からは自転車保険が義務化となり、賠償保険の選択肢をわかりやすく住民に理解してもらう活動を開始しました。

光が丘地区では、これに加えて高齢者の自転車ヘルメット着用を推進する計画です。データでは自転車死亡事故の約7割は頭部打撲です。運動機能の低下した高齢者は、交通安全意識の未熟な若者の運転する自転車との衝突時などに頭部打撲のリスクが特に高いのです。「高齢者は自転車ヘルメットで自分と若者の将来を守ろう」「若者は賠償保険で、自分の将来と高齢者を守ろう」が合言葉です。また、光が丘地区は狭い道路（4m幅中心）の入り組んだ住宅密集地です。現在、まちづくり会議を通して、住宅地域内速度抑制（ゾーン30）にも取り組んでいます。



毎日の通学路見守り



交通安全キャンペーン(自転車事故防止啓発運動)

3. 自治会加入促進と退会防止活動

自分たちの暮らす地区の安全を守る中心となるのが「自治会」の活動です。しかし、多様化した若い世代に「自治会」の重要性と真の意味を伝えることは簡単ではありません。「光が丘地区自治会連合会」では、自治会加入促進の活動を継続的に実施しています。

5年前に制作された啓発チラシ「自治会ってなあに」は、誰でも理解できるわかりやすい内容になっています。現在では相模原全市版として採用されています。これとセットで、「自治会」の真の意味を伝える啓発講座用のスライド（パワーポイント）も作成し、毎年交代する自治会役員・班長に理解を深めてもらう活動を継続しています。啓発スライドには自分たちの住む地区の成り立ちと歴史も盛り込まれています。自分の住む地区への理解が深まれば、それだけ愛着もわき



自治会加入促進 啓発チラシ

ます。こちらの啓発スライドも相模原市自治会連合会を通して、光が丘地区以外へも広がりつつあります。毎年、新しい視点からの内容を盛り込んだ「啓発チラシ」と「啓発スライド」が追加され、これまでに第5弾まで作成されました。これらの啓発ツールが光が丘地区の「自治会加入促進」と「退会防止」に役立っています。

4. 次代を担う子どもたちを育成する活動

11月の23日に実施する「こども未来ワールドin光が丘」も2018年で3回目を迎えました。これは従来の“大人が企画して、子どもを呼ぶ”という発想を逆転させ、“子どもが企画して、大人が実現をサポートする”というフェスティバルです。地域の小・中・高の学生ボランティアが、学校の枠を超えて集まり、自由に発想・企画して進めます。大人も趣旨に賛同したボランティアで、黒子としてその実現に向けたサポートをします。当日の子どもたちは皆、喜々として自分たちの企画したブースでお客様の子どもたちを迎えます。そこで発揮した自主性と積み重ねで得た達成感が次代の地域活動を支えるものと強く信じます。



こども未来ワールドin光が丘



こども実行委員(学校の枠を超えて集まった小・中学生)

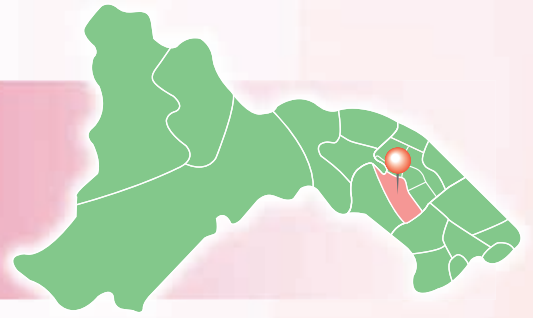
▶ 光が丘地区の今後の課題

高齢化率32%（中央区1位）で、高齢世帯の生活支援が課題の一つです。県道村富相武台線から離れた地区での交通手段は車が中心であり、地区内で実施したアンケート調査でも、免許の返納により買い物が困難になるとの声が多数寄せられました。この地区課題に対応するため、現在、市から委嘱を受けた「地域ケア会議」のメンバーを中心に、地区の「社会福祉法人」の協力を仰いで、光が丘地区を循環する「買い物カー」を運行（2018年後半試験運行、2019年4月～本格運行）しています。



買い物カー（お太助カー）

小田急多摩線の延伸により 発展を期するまち上溝



▶ 地区の概要

上溝地区は、鳩川、姥川、道保川の3本の河川が流れ、横山丘陵の緑地など自然に恵まれたところです。

また、江戸時代末期からの伝統を誇る『上溝夏祭り』などの豊富な伝統文化を育むとともに、『上溝だるま市』や『上溝西の市』が開かれ、毎年多くの人でにぎわい、古くから相模原の南北を結ぶ交流の拠点として栄えてきました。今日においても市内を縦断する相模線が通り、地区内には上溝駅、番田駅があり、さらに主要な道路が交わるなど、交通の要所になっています。

明治22年の町村制試行により溝村ができ、その後大正15年に上溝町が誕生し、昭和29年の市制施行により、市役所が現在地に移転するまで、町役場は上溝にあり、相模原の政治経済・文化の中心地としての役割を担い発展してきた歴史のあるまちです。

昭和44年、市自治会連合会発足当時の自治会数は17自治会、人口が10,746人・2,705世帯で、そのうち自治会加入世帯は、2,426世帯でした。そして、平成30年4月1日現在では、自治会数は16自治会、人口が33,575人・13,401世帯で、自治会加入世帯は6,902世帯、自治会加入率は51.5%となっています。



勇壮な上溝夏祭り



改修が完了した番田駅

▶ 地区内の主な出来事

- 平成21年度 上溝公民館創立60周年
平成22年度 上溝地区まちづくり会議、エンジョイ上溝実行委員会発足
平成23年度 さがみはら産業創造センター（SIC-3）開所
平成24年度 上溝まちづくり大会開催
平成26年度 上溝学校給食センター開所
上溝さくら公園開園
平成27年度 上溝まちづくり展開催
平成28年度 ぶらっと上溝開所（地区社協の取組）
五部会神輿大改修
小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会設立
平成29年度 総合防災訓練（上溝地域会場）実施
平成30年度 番田駅舎改修、番田駅自転車駐車場再整備



シンボルマーク

▶ 「エンジョイ上溝」の取組

平成22年、相模原市の政令指定都市移行に伴い、市内22の地区自治会連合会区域ごとに「まちづくり会議」が組織されましたが、当地区においてはさらに、同会議を母体とする「エンジョイ上溝実行委員会」を立ち上げ、まちづくりの“実践”に取り組んできました。

平成23・24年度に取り組んだ「上溝プロジェクト」では、多摩美術大学の学生たちの豊かな発想により「まちづくりのヒント」を得ることができました。

また、平成25年1月には、音楽祭とまちづくりフォーラムの2部構成による「上溝まちづくり大会」、さらに平成28年2月には、地域活動団体の取組を紹介する「上溝まちづくり展」を開催しました。これらの取組により、多くの方に「まちづくりを考え、行動していただく機会」を提供できたものと考えています。



上溝まちづくり大会の様子

▶ 小田急多摩線延伸・上溝駅開設に向けた取組

平成28年4月、小田急多摩線の延伸計画が国の交通政策審議会で意義あるプロジェクトと位置づけられ、その実現に向け一歩前進しました。

しかし、費用負担や採算性など多くの課題が指摘されていることから、地区の活性化や「住みよい、賑わいのあるまち」の新たな創造に向けて、平成29年3月に地区内の団体や個人等からなる「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」を設立し、以後、地域一体となった周知・啓発活動など積極的な取組を進めています。



上溝夏祭りでの周知・啓発活動

▶ 今後に向けて

文化と伝統にあふれ、地域の創意工夫で発展してきたまちですが、他の地域と同様に、少子高齢化・核家族化の進行や共同住宅の増加等に伴い自治会加入率は低下を続けており、自治会活動をめぐる状況は年々厳しさを増しています。

しかし、大きな被害をもたらす自然災害が頻発していることなどに伴い、自治会が果たす「共助」の役割が改めて見直され、地域の連帯意識の向上が求められているのも事実です。

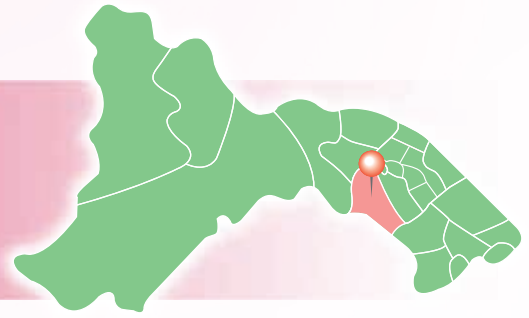
当地区自治会連合会は、今後も上溝の歴史を継承しつつ、住民一人ひとりが助け愛（合い）の精神でつながる「幸齢（高齢）社会」の実現に向けて努力していきます。



世代を超えて「流しそうめん」

田名地区自治会連合会

田名のあすを拓く



▶ 地域の概要

相模川の豊かな流れや、多くの自然などの観光資源に恵まれ、18,000年前の旧石器時代の昔から人々が生活を営んできた歴史と伝統に培われたなかに総世帯数11,585世帯のうち7,096世帯、16自治会で田名地区自治会連合会を構成しています。



豊かな相模川の流れと鯉のぼり

▶ 地域活動の経過

－田名の未来は今にあり・みんなの願いを実現しよう－

道路は狭い、交通事故が多い、犯罪が多いなどから、平成14～15年頃、地区内の生活環境の改善に向けた機運が高まり、自治会長OBなどの協力により、「田名のあすを拓く委員会」を立ち上げ、当時の分科会は、公共交通促進協議会、防犯協会、景観植栽委員会などの組織となって活動し、現在に至っています。

この度の相模原市自治連50周年記念誌の発刊にあたり、平成20年代の「田名のあすを拓く」活動の一端をご紹介します。

▶ 田名に電車が走るときまで

－見たい・乗りたい・みんなの願い－

大正末頃に田名まで線路を引く計画があり、現在も線路用地が残っています。その計画から80年後の平成12年、国の運輸政策審議会の答申を見て、田名は発憤。「小田急線の延伸が相模線まで」とある答申に、「田名へ」と記されるためにはどうすればいいのかを考え、17,170名の署名を集めて要望。「電車は来るのか」「いつ来るのか」「無駄なことはするな」などと言われながら・・・。

さらに、平成28年4月の答申を見ても田名はあきらめない。

「田名に電車が走り、相模川を越えて愛川・厚木方面に線路が続く」その時までは。

いつか「田名のあすを拓く」ために。

○田名地区公共交通整備促進協議会と交通諸課題への取り組み

平成19年3月、協議会を立ち上げ、小田急や行政へ小田急線延伸の要望、渋滞や事故の多い道路、路線バスだけの公共交通など地区内の交通課題に取り組みました。

○しおだ夢のかけはしの実現と地域の交通安全

夢の丘小学校の生徒の半数、約400名の児童が田名塩田から通っています。国道129号を横断する道路は危険で、児童の事故もあり、歩道橋設置を要望し、開校14年後の平成28年3月、歩道橋「しおだ夢のかけ橋」が完成し、通学路の安全が確保されました。



しおだ夢のかけはし

○コミュニティバスの導入検討

地区内の公共交通は、路線バスしかないことから、地域からコミュニティバス導入の要望が出され、導入基準、他地区の導入状況、地区内道路状況などを検討した結果、様々な利用希望による課題が多く、導入を断念しました。

○高田橋際交差点の渋滞対策

渋滞が激しい県道相模原愛川線の渋滞緩和のため、高田橋際交差点への右折車線を設置する交差点改良を要望、平成30年7月に完成しました。



愛川町側から見た高田橋際交差点

○バスターミナルの有効活用と路線バスの利便性向上

平成26年度末に待望のバスターミナルが完成した後、バスの発着の連携が悪いとなどの苦情も多いことから、行政、バス事業者と情報交換しながら、対応を検討しています。

加えて、市役所への直通バス、バスターミナル隣接地への交番移転についても要望しています。



田名バスターミナル

▶防犯や防災・福祉など地区内の安全安心に向けた取り組み

○青パトによるパトロールと防犯対策の強化

「常に人の眼がある」「住民の高い防犯意識」など、犯罪を起し難い環境づくりを防犯の柱として、向こう3軒両隣のつきあい、見守り活動を強化するとともに、防犯協会や自治会役員OBなどで、乗務員150名を構成し、青パト2台による防犯パトロールは、青パトの運行を防犯協会が担い、防犯の環境づくりや地域の防犯活動に大きく貢献しています。



地区巡回中の青パト

○防災訓練の実施

自治会員総出による黄色い小旗運動など、発災時の行動を体験して意識の向上を図る防災訓練を行っています。

しかし、避難所の指定区域、自治会未加入者と外国人対策、避難所運営などの課題への検討も急務です。



田名地区防災訓練

○自治会長経験者 (OB) による地域活動への支援

OB会は平成14年度から現在まで200名を超える自治会長で、活発に活動しています。

特に、泳げ鯉のぼり相模川、ふるさとまつり、相模原納涼花火大会などの地域イベントをはじめ、登下校の見守り、青パトの乗務など、広範囲にわたる地域活動への協力は、地区自治会連合会の大きな力になっています。



田名ふるさとまつり